

読書メモ2019年9月号

やなぎさわかつひろ

柳沢克央 編

(信州・上田仮説サークル)

2019年9月28日(土), 9月例会用レポート

◇はじめに—

前回までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて屋代高校図書室蔵書。

◇9月に読んだ本

◎木村誠著『大学大倒産時代』(朝日選書・2017年) (古)私物)

近いうちに地方を主として学生が集まらない大学はどんどん倒産する時代に突入するということについて新鮮なデータを元に考察している本。賞味期限は短めだが、その方向性はこれからもしばらく続くと思われる。問題意識、書きっぷり共に新書ならではのコンパクトな本。生徒の進路アドバイスのために即効性があり、役に立つ。「点検読書」でオシマイ。

◎陰山英男著『娘が東大に合格した本当の理由』(小学館新書・2008年) (古)私物)

文章の味わい、内容、どちらをとっても、私にはこれといった魅力が感じられなかった。自分の娘のことを本に書くことに私は反対する。陰山氏にはかなり注目していた時期もあったが、それも過去のことになりそうだ。

◆来月以降のためのリスト

◎石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎共著『経営戦略論』（有斐閣・1985年）（古私物）

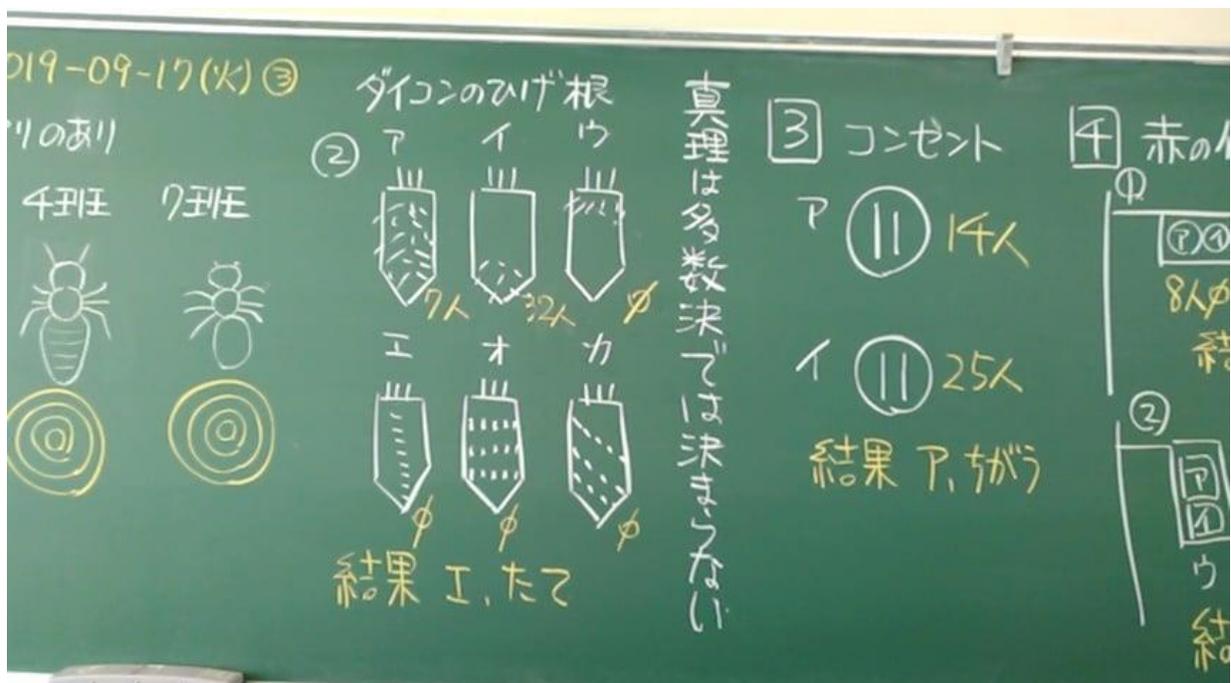
◎堀古英司著『リスクをとらないリスク』（クロスメディア・パブリッシング・2014年）（古私物）

◎野村進著『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書・2008年）（古私物）

◇まとめ・つぶやきなど

○東大応援部主将を務めている本校卒業生（名前は本当に失念）が夏休み明けの集会でパフォーマンス&講話を披露してくれた。演説の要旨。「①三兎（勉強・班活動・生徒会活動?）を追い。②スマホと上手につきあえ。③時間を大切に。④本・新聞を読め。⑤成功した自分自身をイメージせよ」。正統派でとても明快な内容。「組織が人をつくる」ということわざの成功例的な人物と見受けられた。

○今月は、いろいろあって、あっさりと。9月27日（金）18:20



2019年9月の授業《見れども見えず》の板書より